

## 要 旨

### 目的

本研究の目的は、都市部大学病院 A の泌尿器科と皮膚科の混合病棟において、所属看護師全員が退院支援プロセスを理解し、リーダー看護師が退院支援に必要な役割を発揮できるよう、退院支援推進プログラム（以下、プログラム）を実施し退院支援の質改善を図ることである。

### 目標

1. 質改善アプローチを用いてプログラムを実施し、退院支援プロセスがスムーズに行われ、リーダー看護師のリーダー役割遂行力が向上し、患者・家族の満足度が向上する。
2. 病棟看護師におけるプログラムに対する実行可能性、忠実性、適切性、受容性、浸透度を向上させる。

### 方法

実装方略のプログラムとして、退院支援学習会の後、週 1 回の入院時カンファレンスの開催とリフレクションを 1 回の QI サイクルとした。実装成果は、実行可能性、プログラムの忠実性、適切性、受容性、浸透度の変化を観察した。臨床的成果は、退院支援プロセスの円滑度として退院支援計画の立案頻度等やリーダー役割遂行力、患者・家族の満足度から量的、質的データを用いて評価した。測定方法として、退院支援プロセスでは、ニーズアセスメント件数を分母とし退院支援計画立案数を分子とする退院支援計画立案率等、リーダー役割遂行力では、順序尺度とリーダー看護師の語りから作成した逐語録を用いて評価した。患者・家族の満足度は、退院時の質問紙記入と退院後の電話調査で評価した。1 回の QI サイクルを 1 か月とし、QI サイクルを 3 回行って、PDCA サイクルを回した。QI サイクル毎のデータは、変数の記述統計量の実数や平均値、百分率などを算出し、経時的変化はグラフに示した。データ分析結果をもとに、実装成果と組織的成果の変化と相互の関係について考察し記述した。

聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号 19-A005

### 結果

臨床的成果である退院支援計画立案率は、ベースラインデータよりも増加した。リーダー役割遂行力は点数が維持または向上し、リフレクションでは「医師に治療方針を確認して行動するようになった」ことや、退院支援のプロセスを意識した活動の実施など行動の変化が語られた。患者・家族の満足度は、退院後の治療や注意点等の説明の満足度が高かった。

実装成果の実行可能性は業務に支障なく実行でき、忠実性、適切性、受容性、浸透度とともに QI 1 回目と比べ 3 回目の点数が上昇し、概ね良好な結果であった。

質改善のためにリーダー看護師と研究者が、カンファレンス患者を打ち合わせしたことで的確な患者抽出が行われた。そして、研究者のカンファレンス毎のリフレクションでの傾聴と承認により、リーダー看護師の自己成長につながった。

### 結論

病棟看護師に対する退院支援推進プログラムの実施は、実行可能性、忠実性、適切性、受容性、浸透度の向上につながった。さらに、介入によって退院支援プロセスが円滑に行われ、リーダー看護師のリーダー役割遂行力が向上し、患者・家族の満足度の向上に効果をもたらした。このことから 2 つの目標は達成できた。